

「港が動く、人が動く、志布志市が動く」5本の政策の柱

① 物流・貿易・企業誘致による成長基盤の強化

東アジア・東南アジアに近いという志布志港の地理的優位性や「産直港湾」としての強みを生かし、県内外の食品、農林水産品の輸出増加に向け、ポर्टセミナーの開催や積極的なPR活動を通じて、志布志港の利用を促し、外資コンテナ取扱貨物量を増やすことで、南九州唯一の貿易港としての存在感をさらに高めたいります。また、令和7年11月に改訂された志布志港港湾計画に基づく志布志港の整備が早期に着工されるよう、要望活動などを推進してまいります。

インター工業団地への企業誘致を積極的に進めるほか、交通アクセスを生かした新たな事業用地の検討を進めるとともに、企業立地促進補助金の交付要件を緩和し、企業訪問やフェア出展を通じて、立地環境の優位性や補助金制度をPRし、多様な業種の企業を呼び込むことで、地域経済の活性化を図ってまいります。

人口減少に抗い、本市の経済を活性化させるためには、若者や女性にとって魅力的で安心して働ける場所の確保と創出が最も効果的だと考えます。そのため企業誘致の庁内体制を整え、市内企業の設備投資を含めた企業誘致を強力に進めてまいります。

人手不足分野における外国人材の新たな受け入れ制度として、令和9年開始予定の「育成就労制度」に対

④ 人の流れを呼び込み、定着させる施策

移住・交流支援センター「エスプラナード」の機能を強化し、お試しで暮らせる新たな移住体験ハウスの整備や、民間と連携した空き家活用を進めてまいります。

保育園と連携した1〜2週間の「保育園留学」や、地域高校みらい留学といった新しい滞在の環境を整え、子育て世代や若者が本市の魅力を体験する機会を創出することで、関係人口を増やし、二拠点生活のきっかけをつくり、最終的な移住へとつなげてまいります。

また、都市部の若者や女性が本市で学び体験する機会を創出するため、大学のサテライトキャンパス誘致を推進します。それにより新たな交流を生み出し、将来的な本市への就職や移住へとつなげ、地域の活性化を図ってまいります。

首都圏の拠点である東京駐在所をさらに活用し、首都圏からのふるさと納税を増やし、ふるさと納税をきっかけに本市の魅力を戦略的にPRします。志布志ファンを増やし、観光などでの来訪につなげ、将来的な移住へとつなげてまいります。

本市との継続的な関わりを持ち、応援してください。「関係人口」を増やすため、令和7年4月に締結した住之江区・商船三井さんふらわあとの三者協定を生かした関西圏との交流事業や、ふるさと納税をきっかけとしたファンとのつながりを深め、多様な人材とのネットワークを築き、本市の活性化や二拠点生活などへつなげてまいります。

下平市長が令和8年度第一回志布志市議会定例会で示した「所信表明」を掲載しています。(原文はホームページで公開)

応するため、本市で外国人材が安心して働き、暮らせる環境づくりに向け、雇用事業者へのアンケートなどを通じて課題を把握し、生活支援や多文化共生の取組を事業者と一体となって強化することで、外国人材にとっても魅力的な「選ばれるまち」を目指してまいります。

② 観光・交流促進による地域活性化

志布志東部地区エリア基本計画に基づき、歴史的建造物を活用した観光まちづくりを推進するなど、先人たちが守り築いてきた歴史・文化遺産や、志布志湾がもたらす美しい自然景観といった貴重な資源に新たな光を当て、魅力を磨き上げてまいります。そして、訪れる人々がその価値を深く体験できる観光コンテンツとして発信し、交流人口の増加につなげてまいります。

地域通貨の活用や、歴史的建造物「山中氏邸」の利活用、多世代交流施設との連携により、商店街のにぎわいを取り戻してまいります。キャッシュレス決済の推進や、新たな出店を支援することで、魅力あふれる商店街の再生を目指してまいります。

志布志運動公園体育館への空調設置、有明野球場の改修や多種多様なスポーツ活動を行える環境の整備を進めるほか、サッカーコートが揃うおかせ公園、テニスコートが揃う城山運動公園など、充実したスポーツ環境であることを全国・アジア圏などへ積極的にPRし、年間を通して多くの大会や合宿を誘致することで、交流人口の拡大と地域経済の活性化を図ってまいります。

令和7年3月に策定された志布志港長期構想では、

令和8年度には、本市の最も基本的かつ総合的な指針として10年間の「第3次志布志市総合計画」と5年間の前期基本計画を策定し、併せて地方創生を進めるための「第3期総合戦略」を策定しますが、基本計画や総合戦略の全ての施策をSDGsに基づく「持続可能性」という軸で貫き、両計画に基づいた包括的なまちづくりを推進してまいります。

⑤ SDGsに基づく包括的まちづくり

令和7年7月に国より「SDGs未来都市」として選定を受けたことを追い風にして、本市の環境を守る取組が経済的な豊かさにつながり、それが市民の暮らしやすさを向上させるといった「経済・社会・環境」の好循環を生み出す、脱炭素社会の実現に向けた挑戦を加速させてまいります。また、地球温暖化対策は、未来の世代に対する私たちの責任であり、「ゼロカーボンシティ宣言」を行った本市としては、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、市民、事業者、行政が一体となってさらに5Rを推進し、再生可能エネルギーの導入や省エネ化を進めてまいります。

本市のリサイクル推進やごみの減量による循環型社会構築の取組を「環境に優しいまち」としてPRし、さらなる地域イメージの向上につなげることで、新たな企業誘致や投資を呼び込み、持続可能な経済成長を目指してまいります。

断熱・遮熱塗料といった省エネ技術については、国の補助制度を活用した家庭や企業などへの導入を支援

「所信表明」を掲載します。(原文はホームページで公開)

ハード・ソフト面からクルーズ船の受入れについて促進していくこととされました。それに合わせ本市も、寄港地、観光地および特産品の産地としての魅力あるツアーを造成し、国内外からの寄港について船会社などへの積極的な誘致活動を展開してまいります。

市民や観光客が交流できる新たなぎわいの拠点を創出するため、地元の新鮮な農産物や特産品を販売することができる物産館の設置を検討してまいります。市内外へ本市の食の魅力を発信するとともに、生産者の所得向上を目指してまいります。

③ 農林水産・地域産業の付加価値化

てん茶や抹茶、ピーマン、うなぎなどの生産拡大など、市場ニーズの高い作物を産地化し、高付加価値を支援してまいります。スマート農業技術の導入を促進し、省力化と生産性向上を図ることで、新規就農者の確保と「稼げる農業」の実現を目指してまいります。

また、畜産については優良種畜の導入支援をすることにより、農家経営の維持向上を図ってまいります。

農林水産業を始めとする本市の地域産業の裾野を広げ、多様な担い手が活躍できる、活力ある経済を創出するため、新たな地域資源を発掘し、事業展開を支援してまいります。

企業版ふるさと納税制度を積極的に活用し、本市の地方創生プロジェクトについての新たな財源創出や公民連携を促進してまいります。また、企業との包括連携協定を通じて、専門知識やノウハウなどの外部資源を取り入れ、地域課題の解決を加速してまいります。

脱炭素化とコスト削減を後押ししてまいります。また、ペロブスカイト太陽電池などの次世代エネルギー技術の導入など、環境と経済を両立させるGX(グリーン・トランスフォーメーション)の新技術を積極的に検討し、その導入を支援することで、新たな経済モデルを創出してまいります。

本市の財政を持続可能なものとするため、国などの交付金や補助制度を最大限に活用してまいります。また、事業者を対象とした国などの補助制度の情報提供にも努めてまいります。そのため、市職員の情報収集力や補助制度活用のための企画力を高め、国や県との連携を密にしております。また、経年劣化などによる公共施設の維持費が増加しているため、削減や統合など個別施設計画に基づく公共施設のマネジメントを強化してまいります。引き続き「入るを量り出す」を制す」を基本方針として、財政事情に鑑みながら、施策の展開を図ってまいります。

「くらしを守る、未来を育てる」「港が動く、人が動く、志布志市が動く」の2つをキーワードにした市政運営の基本的な考え方を述べてまいります。

具体的な取組については、毎年度の施政方針や予算にて示し、本市が「誰もが安心して暮らせるまち」であることを市民の皆さまに実感していただけるよう、全ての分野を対象に必要な施策を整えてまいります。

本市の将来都市像「未来へ躍動する創造都市 志布志」の実現に向けて、市民の皆さまのご理解とご協力を心からお願ひ申し上げ、所信とさせていただきます。